

第4回 未来創造セミナー実績報告

平成27年12月8日
草津市総合政策部草津未来研究所

1. 平成27年度未来研究所事業 未来創造セミナーの目的

草津未来研究所が行った過去の調査研究において南草津の課題解決のためには「気軽に自由に議論や話ができる空間が演出され、常に新しい出会いが創造」される場が必要との提言を行ったことから、「未来創造セミナー」を開催することとしました。未来創造セミナーにおける主な検討項目は下記のとおりです。

【検討項目】

- ・ トーク空間の必要性の検討（検証）
- ・ 気軽に自由にまちづくりについて議論や話ができる空間に対する市民のニーズ把握
- ・ 気軽に自由に議論や話ができる空間演出の検討
- ・ ワークショップ等の手法の試行
- ・ 開催曜日、開催時間等のニーズ調査

2. 未来創造セミナーの開催内容

まちづくりについて行政、大学、市民（在住者、通学市民、通勤市民、活動市民、企業市民）が自由に話し合う開かれた場とします。今年度はテーマ、及びワークショップ手法を変え、6回の実施を予定しています。

未来創造セミナーの目的は「開かれた場の有効性と空間演出の検討ですが、各回のテーマについては下記のことを期待しています。

- ・ 草津未来研究所主催、担当課が協力することにより、担当課の職員も市民の立場でも対話できる仕掛け。
- ・ 担当者が市民と直接対話することにより、間接的にまちづくり政策に反映を期待。
- ・ 和やかな雰囲気の中で異なる立場の他者の意見を聞くことによる新たな気づきや抱いている思いを言葉に出す。
- ・ まちづくり政策への反映は担当課が判断する。

また未来創造セミナーの基本的な流れは以下の通りです。

- ・ まちづくり政策についてのアンケート結果等をわかりやすく説明するだけでなく、アンケートで見えなかったことを参加者に問いかける。

- ・ 大学の先生から、問いかけを考える上での基礎的知識やヒントを提供する。
- ・ 様々な立場の人がワークショップで解決策を話し合う。
- ・ 参加者全員で個々の意見や経験を共有する。

3. 未来創造セミナー開催実績及び予定

今年度の予定は以下の通りですが、内容については今後変更の可能性あります。

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
テーマ	理想とする女性の働き方	子育てしやすいまち	アーバンデザイン	文化	健康	大学地域連携
庁内連携部署	男女共同参画室	子ども・子育て推進室	都市計画課	未来研究所	未来研究所	未来研究所
専門家	二宮周平 (立命館大学) 京楽真帆子 (滋賀県立大学)	小沢道紀 (立命館大学)	武田史朗 (立命館大学)	木下達文 (京都橘大学)	岡本直輝 (立命館大学)	肥塚浩 (立命館大学)
開催日時	平成27年 7月30日 14:00~16:30	平成27年 8月25日 14:00~16:30	平成27年 11月5日 18:00~20:00	平成27年 12月3日 18:15~20:15	平成28年 1月26日 10:00~12:00	平成28年 2月予定
場所	市民交流プラザ(南草津駅前)					

4. 第4回 未来創造セミナー実績報告

(1) テーマ、目的等

①テーマ

「琵琶湖と宿場だけじゃない！ みんなでつくろう、草津の文化
～文化は地域の結晶（クリスタル）！」

②目的

草津市の市民意識調査では、住環境評価では「地域に誇れるもの（ブランド）がない」、草津市のイメージでは「特にイメージがない」が常に上位にある。そこで、地域にとってマイナスと考えられるモノ・コト・人・場所でさえ、考え方によって地域の文化となりうることを知り、新たな文化を創造するためのヒントを得ること。

(2) 日時：12月3日（木）18：20 から 20：25

(3) 場所：市民交流プラザ 大会議室

(4) 当日のスケジュール

18：20	ご挨拶 草津市総合政策部草津未来研究所 副所長 山本 憲一)
18：25 ～ 18：40	草津クイズ！ シットルケ？ 草津市総合政策部草津未来研究所
18：40 ～ 19：00	「文化は地域の結晶（クリスタル）！」 木下 達文 先生（京都橘大学現代ビジネス学部）
19：00 ～ 19：45	みんなでつくろう、草津の文化 (ワークショップ中はトイレ、ドリンク等のご自由にお取りください)
19：45 ～ 20：15	プレゼンテーション
20：20	閉会

5. 第4回未来創造セミナーの内容について

(1) 草津クイズ！ シットルケ？

草津未来研究所より草津市に関する簡単なクイズを出題。続いて、草津市の市民意識調査では、住環境評価では「地域に誇れるもの（ブランド）がない」、草津市のイメージでは「特にイメージがない」が常に上位にあることを説明。誇れる文化やイメージをみんなでつくろうと呼びかけました。

(2) 文化は地域の結晶（クリスタル）！

京都橘大学の木下教授からは、マイナスのイメージが強かった京都市山科区のまち育てについてお話いただきました。文化には、継承、衰退、創造があること、日本の場合は縄文時代に文化の礎ができていたこと、継承すべき文化がない場合は、新しく創造すること、そして、デメリットと思われることさえ、メリットにすることができることを学びました。

(3) ワークショップの進め方

ワークショップは4つのグループに分かれ、下表のように進めました。

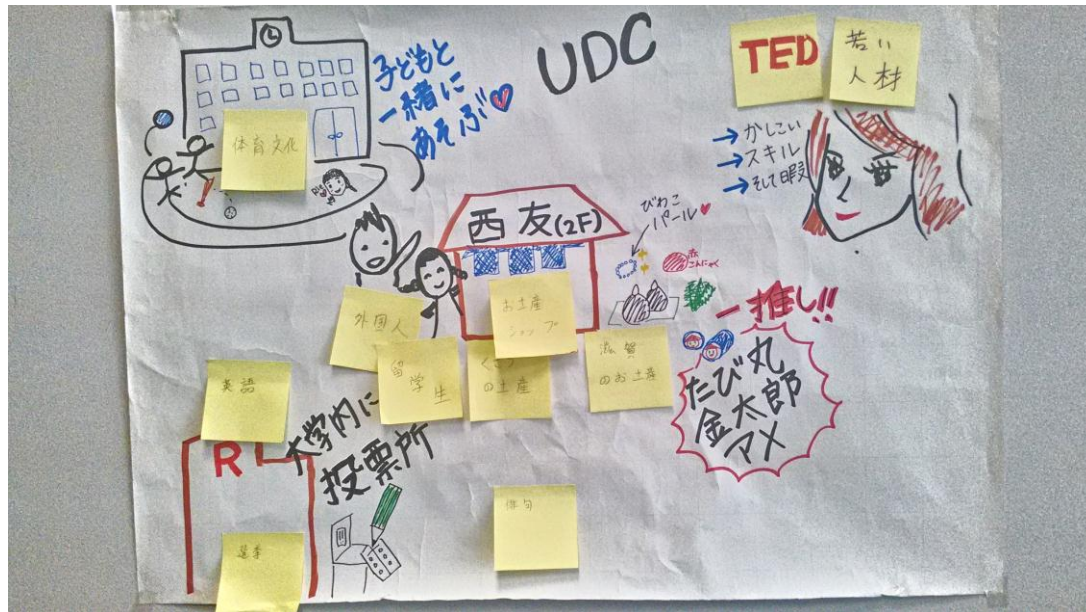
19:00 ~ 19:30	自己紹介と草津への思いを共有
19:30 ~ 19:45	草津を知り感じられる活動を考える
19:45 ~ 20:15	発表



ワークショップの様子

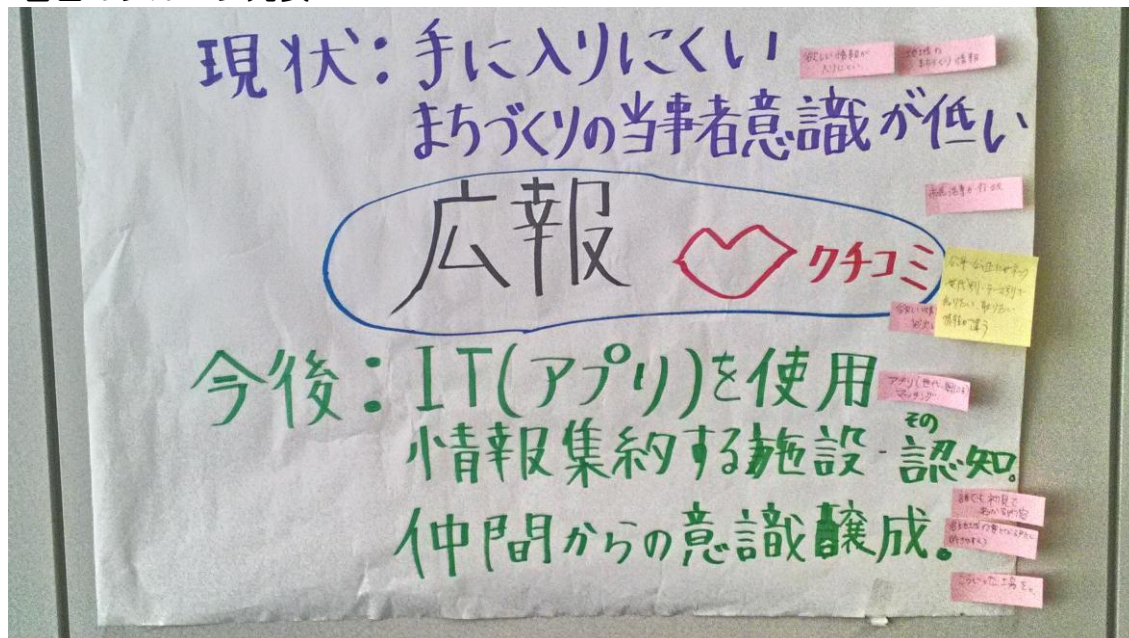
(7) ワークショップのまとめ

- 一番目のグループ発表



南草津には、賢くて、スキルがあって、そして暇がある子育て世代がいっぱい。TED（テッド、英: Technology Entertainment Design）のように、その人たちが考えていることややりたいことをいつでも気軽に自由に発言できる場所がある。そして、その取り組みに共感した人たちが実現に向けて、それぞれが出来ることで応援する。出る杭を打つのではなく、伸ばす。むしろ出る杭がひとつでたなら、他の杭もグイッと出すようなまちにしたい。

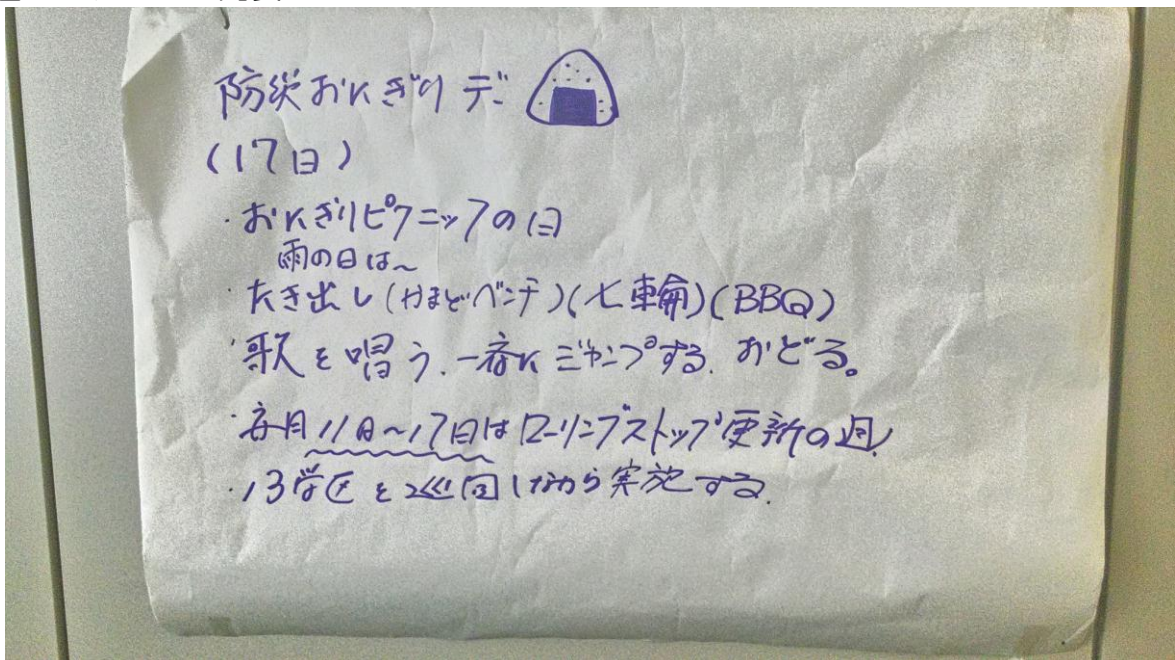
- 二番目のグループ発表



まちづくりに関する市民意識調査では、「地域のまちづくり情報が手に入りにくい」「市民主役のまちづくりが進んでいない」と感じている市民が多いことから、広報を強化する。

その情報を必要としている人のところに確実に届くよう、また自分の持つ情報を伝えたい人に確実に伝わるようなアプリ開発が必要。またそれぞれの世代や価値観などによって必要な情報が違うため、個々のテーマに沿った個別の情報を集約する施設を作り、ネット等を活用し、その認知を図る。そして、ネット（アプリ）からリアル（施設）に人が集い、仲間意識を醸成。同じ人が複数のテーマに関心がある場合は、テーマ・コミュニティ（施設）間の弱い紐帯となり、つなげていく活動。

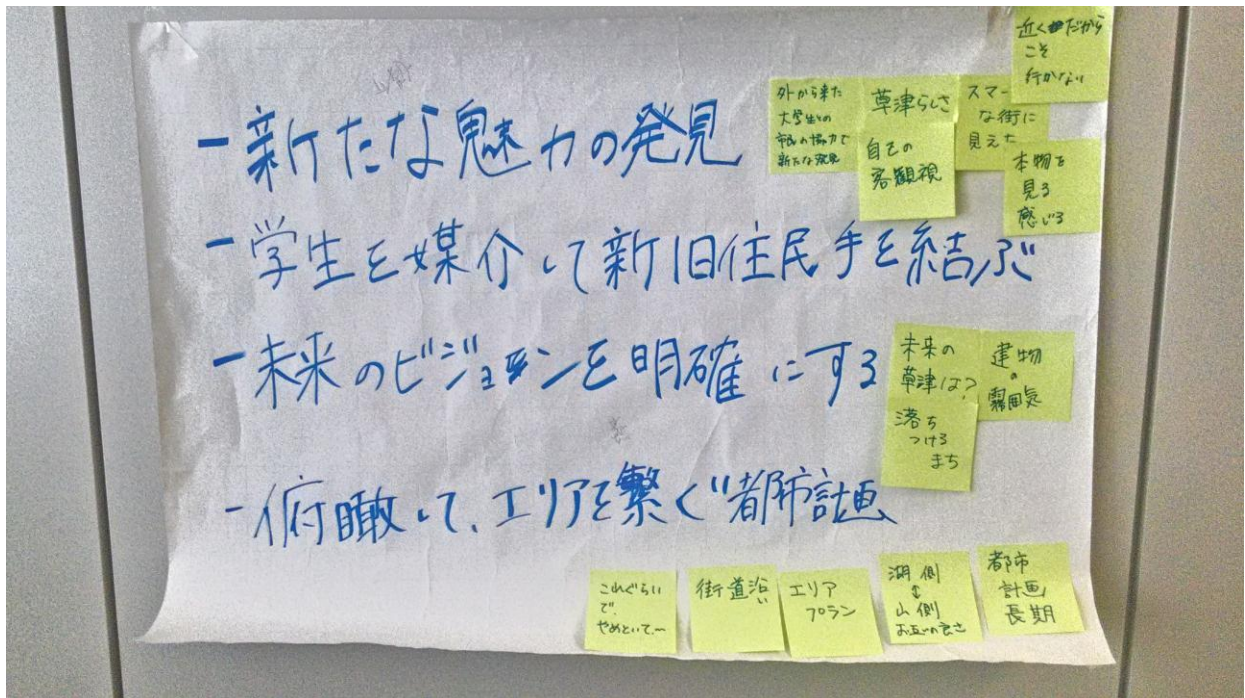
- 三番目のグループ発表



防災おにぎりとは、阪神大震災が発生した毎月17日におにぎりを食べて、防災意識を高める活動。

おにぎりを食べるだけでなく、おにぎりピクニックの日にして、楽しみながら、炊き出しをする。その際に実際に被災時に利用するかまどベンチや七輪、BBQなどをするなど。阪神大震災だけではなく、東日本大震災の発生した11日から17日をローリングストック（非常食を定期的に 飲食し、使用した分を補充するという備蓄方法）の週とする。13学会を巡回して実施する。

● 4番目のグループ発表



グループの構成は、生まれも育ちも職場も草津一筋60年の旧住民、草津にきて45年、結婚して草津にきて25年の新住民、草津に下宿している大学生、そして今年の4月から草津で働き始めた人との5人。新旧住民と下宿生、通勤者との草津のイメージが全く違う。普段は学校や職場しか知らないけれど意外と草津はスマートだと思っている下宿生と通勤者、まったく草津は保守的でいけないと思う新旧住民。新旧住民の間にはどうもいろいろありそう。また街道文化というけれど街道で湖側と山川が分断されていて、湖側の人は山側を知らない、山側の人は湖側を知らない。学生にもっと地域に入ってもらい、新旧住民と湖側・山側の住民を繋げるような活動が必要。今は草津全域の未来のビジョンがない感じ。

6. 未来創造セミナーとしてのまとめ

(1) 参加者属性

今回も前回同様学生、企業に勤めている方が参加しやすいよう平日の夕方に設定しましたが、学生、企業に勤めている方の参加が低調でした。前回の反省を踏まえ、商工会議所での告知、個別企業への直接的働きかけ、えふえむ草津での告知などを行いました。が、学生や企業の反応が鈍く、子育て世代の方が中心になりました。

参加していただいた学生や企業の方の満足度は高く、参加さえしていただければ満足していただだけると考えていますが、学生にセミナーの参加を進める際に話を聞いたところ、過去の類似のセミナー等に参加した際の経験から学生が話すような雰囲気ではなかったと敬遠した学生も多かったようです。また企業の方に参加を進めた際も今まで市が主催するセミナーに参加して意見をいってもどうせ変わらないという思いをもたれているようです。

参加者属性

(1) 属性別参加状況

属性	人数
市民	15
学生	1
企業	1
大学	2
職員	4
合計	23

(2) 性別参加状況

性別	人数
男	14
女	9
その他	0
合計	23

(3) 年代別参加状況

年代	人数
20代	1
30代	1
40代	2
50代	6
60代	3
不明	10
合計	23

なお、今回はワークショップでの議論を濃密にするため、募集定員は20名に設定していました。

(2) アンケート集計結果

未来創造セミナーは参加した方々の満足度は常に高いため、いわゆる「食わず嫌い」の方々をどのように引き込むかが課題です。

(回答数：15人)

問い	非常に有意義	有意義	まあまあ	物足りない	非常に物足りない	合計
運営等全般	6	8	1	0	0	15
内容	6	9	0	0	0	15
問い	大いに活かせる		いづらか活かせる		ほとんど活かせない	合計
今後の活動	9		6		0	15

セミナーの時間については、2時間とワークショップをするには時間が足りないのではと懸念していましたが、適切であるとの回答がほとんどでした。

問い	適切		長い		短い	合計
時間	13		0		2	15

その他の自由記述の意見です。なお、表記は原文のまま記載しています。

(運営等全般に関する自由記述)

- 気さくで良かったです。
- ざっくばらんに話しやすい雰囲気づくりに一生懸命取り組んで頂いた。
- いろんな意見が聞けた。特に学生さんの声が聞けたのは良かった。
- 話しやすい雰囲気でも良かった。
- 笑えたから
- 草津市の新しい街づくりに向けての動き、重要性が理解できた。
- 普段、関わっている(よく知ってる)と思っていた人の新しい側面が知れた。
- ん… 知らない人が1人だった。もっと知らない人に出会いたい。
- 楽しく参加できました。
- もっと参加者がふえてほしい、来てほしい。

(セミナーの内容)

- これから、どんどん動いていく可能性を感じる集まりであった。

- 木下先生の山科での具体例や学生たちの活躍の紹介、参考になりました。ありがとうございました。
- 草津の魅力に気づきました。一番の魅力はここに集まった人々でした。
- 新鮮だったから。
- 市民参加による未来づくりの進め方はよい。
- 自分には関係ないテーマかなと思っていましたが、“関係ない”とっていること自体が問題だと気付きました。
- 初めての方含め和気あいあい楽しく意見交流できました。机に置いて頂いた資料はあまり見なかった（見る時間もなかったです）

（今後の活動）

- 意見をぜひ実現しましょう
- 継続的に同じテーマでやったほうがいい
- 多くの視点、背景をもった人の意見をたくさんきくことができたこと、また自身の考えをアウトプットできるいい機会になりました
- 自分の日々の生活にとらわれない
- 口コミの大切さを感じた。まずはマンションのママ友たちへ情報を伝えるパイプ役をしていきたい。
- 今後の「くさねっこ」活動の参考にしたい。
- 本業に役立つから
- 少しずつ地域のつながりを意識できる人が増えるよう誰でも OK というきっかけ作りが必要なのかなと思いました。
- 防災おにぎりのアイデアはおもしろかった
- 人の出会いの場となりますので、とても良いと思います。
- 同じ志のネットワークづくりに活かせると思った。
- 新しい情報を知ることが出来た

（開催曜日、開催時間）

- 平日のPM6：15スタートは、ある程度早いかもです。平日の午前も、やや難しいかも…。
- このメンバーなら昼間でもよかったなーと思います。社会人0（ゼロ）なら…
- さすがに平日（週の半ば）夜は子連れしんどいです。

（その他伝えたいこと）

- もっと多くの人に参加してもらいたい。自分を発見し、地域を発見する。その繰り返しをしていくことでより深くなるのだと思う。なぜ、なぜ、なぜをくり返す。草津の根っこを発見し、もっとしっかり根をはる事をしていくこと、コミュニケーションをもっと取ってお互いの理解を深めたい。
- 長期のプランを検討するためには、行政担当者の異動はしない方が良いのでは、（市の職員の異動が早すぎるのでは）
- 地域資源の中に離職した高齢者を対象とする「人」の活用を検討されては？（私も今後

離職し、ボランティアの他まだまだ企業様に役立ちたいと思いがあります。「草津人材バンク」の導入？」

- 12月20日の「くさねっこ」講演会（山崎亮さん）に、未来研究所の方にも来て頂けると嬉しいです。

(3) 未来研究所としての成果

場の雰囲気づくりについて評価いただいたこと。

(4) 今後の課題

気軽に自由に話せる空間づくりについては問題ないと考えています。今回は積極的に学生、企業の方に参加を呼びかけましたが、一度もこのような場を経験していなかったり、たまたま参加した前回のイベントが面白くなかったりしたために参加を躊躇された方が思いのほか多いことがわかりました。このような方が様子見できるような人通りの多いガラス張りのオープンな場を作ることが必要です。

以上